



尾間木中だより

学校教育目標
豊かな心を持ち、
たくましく生きる生徒

平成 29年 11月 1日 第7号

〒336-0926
電 話
F A X

さいたま市緑区東浦和4-29-1
048-874-9733
048-810-1127



「読書週間にあたって」

校長 堀 田 明 良

台風が校庭や街路樹のハナミズキの緑の葉と赤い実を散らしていきました。しかし木を見上げると多くの葉は茂り、赤い実も葉の間から垣間見られます。改めてしっかり根を張った、たくましい樹木の生命力に感心した次第です。10月の尾間木中学校の生徒達も、めまぐるしく変わる秋空の下、日々の授業のほか、新人体育大会、中間テスト、市駅伝競走大会や校内合唱コンクールに取り組んできました。

秋といえば「読書の秋」です。今年も71回目の読書週間が10月27日から11月9日まで行われます。読書週間とは、第二次世界大戦が終わって間もない1947年（昭和22年）、「読書の力によって、平和な文化国家を創ろう」と、出版社・書店、公共の図書館などが呼びかけ、新聞社、放送局などマスコミ各社も協力し開催されました。第1回は1週間の開催でしたが、翌年の2回目からは文化の日をはさんで10月27日から11月9日の2週間にわたって開催されるようになりました。読書週間をきっかけに、読書の素晴らしさに多くの人に触れてもらい、論理的思考の基礎となる読書の習慣を身につけてほしいという願いのもとに「読書週間」は、開催されています。

中学生にとって読書をめぐる環境は大きく変化しています。最も大きな違いは、読書以外の魅力的な時間つぶしがたくさんあるということです。スマートフォンやインターネット、ゲームなどは、保護者の皆さんが子どものころには今ほど普及していなかったと思います。中学生は子どもから大人へ変わる時期です。読む本も児童書から大人と同じ本を読むようになるという、読書の質が変わる時期です。この時期に読書から遠ざかると、どんな本を読めばいいかがわからずに、そのまま読書離れが続いてしまう傾向があります。すると、高校生・大学生となるにしたがいさらに読書離れがすすみます。読書力が伸びないから読書の楽しさがわからない、読書が楽しく思えないから読書をしないという悪循環が大人になってもずっと続いてしまいます。

読書と学力との関係は密接なものがあります。全国学力学習状況調査の分析でも読書活動は、教科の学力に影響を及ぼすことが確認されています。特に、読書好きの児童生徒ほど教科の学力が高いという傾向が、非常に強固であることがわかっています。また、平日における一定時間の読書も教科の学力と関係していることも確認されています。読む力のある子どもは、国語だけでなく、理科でも社会でも、文章を読むだけで内容を吸収していきます。しかも、この読む力は、文章を読むことだけにとどまりません。読書力は、物事の相互の関連を、原因、理由、方法、結果、影響、心の動きなどの立体的な構造として読み取る力にもつながっています。したがって読書力はあらゆる学力の基礎となっていると言っても言い過ぎではありません。

本校ではほぼ毎朝10分間の朝読書に取り組んでいます。図書館では宇佐見司書が中学生向けの本をそろえ、生徒の来館を待っています。図書委員会も「尾間木中学校クラス対抗図書館戦争」と名付け、多くの生徒が本を読めるような活動に取り組んでいます。生徒の皆さんに良い本との出会いがあることを願っています。

「書物の新しいページを1ページ、1ページ読むごとに、

私はより豊かに、より強く、より高くなっていく。」

(チャーホフ ロシアの小説家)

